

NPO 法人岡崎がくどうの会

## 第 57 回全国学童保育研究集会（20221029~20221030）レポート

【クラブ】（ つくしクラブ ）

【名 前】（ 西村 巧 ）

### ① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 13 ）分科会①、②

（① 障害のある子どもの理解と受け入れ：②発達障害のある子どもの理解と支援）

今回の全国研は午前、午後との 2 本立てで Zoom による講義及びグループ討議。

さて、午前開催の障害のある子どもの理解と受け入れ。

前半は良かったものの後半からシステムの関係なのか、音声に妙な機械音が入り講師の音が聞き取りにくい。

案の定視聴されていた受講生からのクレームが入り、それが続いた為に内容が頭に入らなかった。

よって今回は午後開催の「発達障害のある子どもの理解と支援」を考えたいと思う。

支援の仕方は個人的には人それぞれの方法があろう。

しかし、自分が前から「発達障害のある子ども」の研修を受けたり、現場で当人に接している中で講師の言うこと、また支援方法で変わらない事がある。

それは「長い文章で伝えない」ということ。

特にこういった特徴のある子どもらは単刀直入に「YES」OR「NO」。

その後その理由を「簡潔」に「分かり易く」伝えなければならない。

僕ら支援する側としてはどうしても目の前の子どもにわかってほしくて色々な言葉かけをしてしまいがちになる。

実はこれは支援員の独りよがりであり実際には投げかけた言葉ボールをほとんど受取ることが出来ずに終わっていることがある。

もっと言うとこれは発達障害のある子どもに限らず、発達途上の子どもたちはほぼみんなそんな側面を持っている。僕ら大人にしたって「聞く」「言う」の勘違い・誤解が現在でも世界中で繰り返されている。

そんな世の中で、「伝える」事の難しさは考えれば考えるほど「伝わらず」、

それを嘆いて「どうして？」と病む。

解決策はまず「伝える」事は支援者が「伝えたい」ことを原子まで分解して伝える。

そうすることで支援者も「事」をしっかり吟味することが出来、それを組み立てながら伝える事でお互いに理解しあう状況が生まれるのでは？と思う。

それが出来ることで「支援」に繋がっていくのでは？と更に思う。

奥深いこの仕事に「立派な国ニッポン」はどんな支援をしてくれるのだろうか。  
伝える事の大事さ、理解しあう事の大事さをもっともっと知らなくてはならない方々  
はまだ世の中にはたくさんいるんだな、と思う今回の全国研だった。